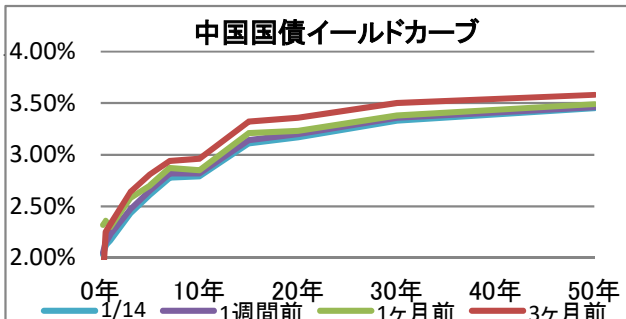
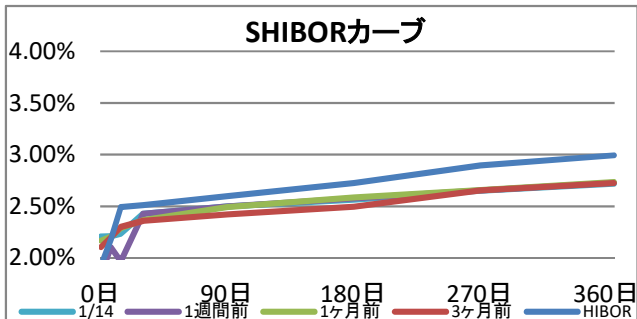


①市場概況

基準レート		2022/1/14	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.3677	-0.0065
	JPY/CNY	5.5780	0.0778
SHIBOR	3M	2.5000%	+0.0000%
国債利回り	10年	2.79%	-0.03%
上海総合指数		3,521.26	-58.28



(1) 概況

国際金融市場では、注目されたパウエルFRB議長の議会公聴会と物価等の経済指標等から過度な金融引き締め懸念は後退したものの、ウクライナ情勢の緊迫化とエネルギー価格の上昇を受け、米国市場が連休に入ることもあって警戒感の解けない展開が続いた。

中国金融市場では、不動産関連企業の債務不履行への警戒が続く中、物価指数の鈍化や新規貸出の予想を下回る伸びが確認されると金融緩和期待が高まったものの、米中金利差の縮小による国外投資家の動向への懸念から小幅な値動きに終始。外国為替市場では、米中金利差縮小が意識されているものの、春節前の外貨売り需要の高まりから一時2018年以来となる元高水準まで買い進まれている。

中国では、北京オリンピック開催を控えて強化されるゼロコロナ政策に伴う経済への影響が懸念される中、李首相は国務院常務会において14次5か年計画における重点項目の実施計画策定に際し、過度な金融緩和への期待を退けつつ、消費と投資による国内需要喚起を進める姿勢を示し、特に薬価引き下げによる医療費負担の軽減の実現に言及している。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日400億元に対し、新規のリバースオペ500億元の資金供給を実施し、100億元を供給している。

本日期日となるMLF5,000億元については、12月にLPR金利が引き下げられていることから、金利引き下げの有無に注目が集まっている。

(3) 主な経済指標

- ・PPI (12月) は、前年比+10.3% (11月、同+12.9%) と、燃料や金属等の原材料価格の高止まりから高い伸びとなっているものの政府の価格抑制策の効果もあって鈍化しており、前月比では2020年12月以来の下落に転じている。
- ・CPI (12月) は、前年比+1.5% (11月、同+2.3%) と、食肉価格を主因に食品価格が下落に転じたことから伸びが鈍化している。前月比では、昨年6月以来の下落に転じている (食品、非食品とも下落)。
- 住宅新築価格 (12月) は下落ペースが鈍化し、貿易総額が通年で6兆ドルを超えて過去最大となり、貿易黒字も12月単月、通年ともに過去最高を更新している。

②資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	2.2090%	2.0500%	2.2000%	
1W	2.2130%	2.4200%	2.3000%	
2W	2.2350%	2.3000%	2.2400%	
1M	2.4290%	2.5800%	3.8000%	2.3800%
3M	2.5000%	2.9500%	6.5000%	2.4700%
6M	2.5640%	3.7500%		2.5300%
9M	2.6500%	3.0600%		2.5900%
12M	2.7180%	4.1000%		2.6000%

納税に伴い足元資金需給が徐々にタイトになっているものの、中国人民銀行は概ね中立的な資金供給を継続しており、市場は総じて安定している。ターム物は1ヶ月の2.6%を中心とする出会いを除き限定的。

NCDは、物価指標と新規貸出等の経済指標を受けてMLF金利の引き下げ等の金融緩和期待が高まりつつあるものの、足元資金需給がタイトなこともあって、金利水準は横ばい推移。ターム物の金利水準は、1ヶ月が2.35%前後、3ヶ月が2.45%前後、6ヶ月が2.55%前後、1年が2.60%前後を中心に取引されている。

(2) 米ドル資金 (本土内)

	BID	OFFER
ON	0.04%	0.05%
1W	0.05%	0.06%
1M	0.10%	0.13%
3M	0.30%	0.35%
6M	0.40%	0.45%
12M	0.45%	0.50%

ドル資金市場は需給に大きな変化はなく、ターム物の金利水準は、1ヶ月が0.10~0.15%、3ヶ月は0.30%前後、6ヶ月は0.45%前後。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	2.03%	2.07%	2.39%	2.53%	2.83%
6M	2.12%	2.14%	2.49%	2.64%	2.95%
1Y	2.17%	2.19%	2.61%	2.65%	2.97%
3Y	2.43%	2.59%	2.78%	2.93%	3.67%
5Y	2.61%	2.82%	3.09%	3.23%	4.14%
10Y	2.79%	3.13%	3.48%	3.72%	4.64%

債券市場では、金融緩和期待が高まる一方で不動産企業のデフォルトや米国の金融引き締めによる金利差縮小による影響への懸念が強く、MLF金利引き下げの有無に注目が集まっており、小幅な値動きとなる膠着状態が続いている。

イールドカーブは、全体的に下方にシフトする中で短期の低下幅の方が相対的に大きかったことからスティーピングが一段と進み、クレジットスプレッドは信用債利回りが長期を中心に下げ渋りの状態となって拡大に転じている。

④先物為替市場

	USD / CNY
1W	23.9 / 24.0
1M	131.0 / 133.0
3M	351.0 / 365.0
6M	685.0 / 688.0
9M	1001.0 / 1017.0
12M	1288.0 / 1290.0

対ドル基準レートは6.3677と前週末比-65pipsのドル安元高、対円基準レートは5.5780と同+778pipsの円高元安と、対ドルでは小幅な変動が続いている。国内市場では、当局の元高けん制姿勢への警戒感はあるものの、米国の金融引き締めに対する過度な懸念が後退したことや春節前の外貨売りニーズも強く、上値の重い展開が続く、金曜日には一時2018年以来となる6.33台まで元高が進んだものの、6.34台に戻して週末を迎えている。

先物は、中国での緩和期待と米国での引き締めによる米中金利差縮小期待からスワップ幅は一段と縮小しており、1年物は1300を割り込んで週末を迎えている。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.22%		2.02%
6M	2.21%	2.49%	2.04%
9M	2.21%	2.50%	2.07%
1Y	2.22%	2.51%	2.07%
3Y	2.37%	2.73%	2.33%
5Y	2.57%	2.99%	
7Y	2.71%	3.15%	
10Y	2.85%	3.31%	

スワップ金利は、利率債利回りの低下により低下傾向にあるものの、短期の金利高止まりが続いたこともあって低下幅は限定的。債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドは債券利回り低下幅の方が大きく、拡大している。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。